

東北大学大学院情報科学研究科
言語変化・変異研究ユニット主催

講演会とチュートリアルのご案内

講師

南部 智史 先生

(モナシユ大学 (オーストラリア) 講師)

日時: 2019年1月10日(木)～1月11日(金)

場所: 情報科学研究科棟3階小講義室

講演会: 1月10日(木) 15時～17時 「が/を」交替の定量的研究」

概要: 本講演では、可能形動詞など特定の述部において目的語が助詞「が」または「を」で標示される現象についてコーパスデータを用いた定量的観点から議論する。印欧諸語においても marked case から unmarked case へと次第にシフトする通時的变化が起きていることが報告されている (Case Directionality hypothesis, Eythórsson 2015)。渋谷 (1993) では日本語の可能形動詞において対格標示へとシフトする言語変化の仮説を立てている。これらを受けて本研究ではコーパスデータに基づき述部の種類などの言語要因を考慮した上で、主格標示「が」から対格標示「を」へのシフトが起きているか統計的に検証した。その結果、そのようなシフトは大きな流れとしては観察されなかったが、「できる」などの語彙述部に関しては主節ではなく従属節においてその変化の兆候が観察された。Bybee (2002) では従属節の言語変化に対する保守性について取り上げており、その議論を踏まえて節の種類自体ではなくその背景にある要因を含めて変化の動機について考察する。

チュートリアル: 1月11日(金) 10時半～12時 「言語の量的データと活用方法」

概要: 本チュートリアルでは、まず言語学で利用される量的データの主な特徴を概観し、どのような研究課題において量的データが有効に活用できるかについて議論する。次に、データの入手方法として現在利用可能なコーパスの使い方やオンラインでのアンケート調査の実施方法などについて紹介し、各自で実際にコーパスの使用、調査の作成を行う。時間があれば分析のための統計的手法についても概説する。

(可能でしたら各自ノートパソコンをご持参ください。)

多数の方のご来聴を歓迎いたします (申し込み・参加費不要)

本講演会は、東北大学運営費交付金、東北大学大学院情報科学研究科講演会・シンポジウム開催支援経費、科学研究費・基盤研究 (C) 課題番号 16K02753 (形態部門と統語部門にまたがる文法化と構文化についての統語論的研究) による補助を受けています。

問い合わせ先: 小川芳樹 (ogawa@ling.human.is.tohoku.ac.jp)